

「最後の学校祭」 利尻町立利尻中学校3年 長谷川 廉

中学校生活最後の学校祭。

私は学級役員の書記としての立ち位置だった。私としては「今まで以上の最高のステージにしてやる！」と勝手にリーダー気分になっていた。まずクラスで何をするか話し合った。しかしなかなか意見が出てこない。そんなときに必死で考えて、意見を出してくれる人が一人二人いる。そのおかげで、金曜ロードショーによせた日曜ロードショーをやることになり、内容はダンスと動画で去年の学校祭と少し似ていた。正直去年の学校祭もなかなか良いステージでして、それを超えるパフォーマンスできるか不安で、不安でたまらなかった。いよいよ二週間の学校祭期間が始まった。私たちは三年生という立場でもあるので、郷土芸能では一二年生に伝統を伝えなければならない。私が太鼓で教えるのは一年生。本来であれば二年生に教えるはずなのだが、いろいろあり一年生になった。しかも私は太鼓がとても苦手で、今でもまともにたたけない。でも練習でわからないところが見つかったら、太鼓の達人と言われる同級生に教えてもらう。ほんと助かった。あまり見ていないが、演舞チームも休み時間に教室で「今日は何をするー」「ここはどうやって教えるー」と話し合っており、大変さと焦りを感じた気がする。それでも演舞と太鼓の合同練習では、ほぼ完成に近いところまで出来上がっていた。クラスの練習では、まずCM撮影をした。CMときたら編集がつきもの。話し合いで学級役員の副級長が家に持ち帰り編集をしてくることになった。翌日の朝の会でそれを発表することになった。見たときはあまりのすごさに発狂してしまった。本当にCMかってくらいの編集力なのです。元ネタと比べても演じる人も編集もすみずみまでこだわっていて感動だった。ダンスではグループに分かれ合計六曲踊ることになった。でも、ダンスが苦手な人だっているし、得意な人もいる。そうなるあたりまえのように得意な人が苦手な人に教えるということが起きる。当たり前なのか？少なくとも私のクラスはそうだった。それでも六曲となれば学校の練習だけでは足りない。みんな家で練習したり、グループで集まって練習したりということも行った。そんなこんなで本番を迎えた。すべての演目が終り、周りの先生やクラスの親から「よかったよ」と言ってもらえた。わたしはそこで最高のステージになったと確信した。そうなったのも先生やクラスみんなのおかげ。私の担任が言っていましたが、みんなの個性が輝いていた。ダンスが得意だったり、太鼓が得意だったり、編集が得意だったり、人をまとめるのが得意だったりたくさんの個性が輝いていたから最高のステージにできたのだと私は思う。

皆さんもいろいろな場面で個性を輝かせてはいかがでしょうか。